

■妊娠前準備のためのアレルギー体質改善で喘息の薬から解放され妊娠したケース

日本ホメオパシーセンター世田谷二子玉川
JPHMA 認定ホメオパス No. 0942
ZEN メソッド修得認定 No. 0351
JPHF 認定インナーチャイルドセラピスト No. 0218
月山 ハル（つきやま はる）

【目的および症状】

喘息をはじめ様々なアレルギー症状を抱える 20 代の女性が、妊娠前のカラダづくりの重要性に気づき、摂ってきた薬への対処、体質改善を取り組む中でアレルギーが緩やかに緩和し、喘息の薬から解放され自然妊娠したケースです。若い世代に増え続ける不妊治療、20 代・30 代とこれから赤ちゃんを産み育てる女性が自分の健康、子どもいのちを自分ゴトとしてしっかり捉え、いのちに責任を持ち取り組む姿勢は、これからの女性の健康、妊娠に対する様々な障壁を乗り越えるきっかけに繋がることを願いこのケースを提出する。

29 歳 女性

主訴：急に出てきた虫さされのような猛烈な発疹、妊娠前のカラダづくり、喘息発作、アレルギー（果物・動物になめられたり同じ空間にいる時・ハウスダスト・花粉）・慢性鼻炎・冷え症

【方法およびタイムライン】

タイムライン

自然分娩で誕生 2,740g 母は妊娠中毒症（BP（血圧）アップ）、精神面では、とてもイライラしていた。

- 1 か月 鼠径ヘルニア発覚。ヘルニア症状を 2～3 回繰り返す。
- 3 か月 鼠径ヘルニア全身麻酔でオペ。2～3 日入院。
- 6 か月 ポリオ接種
- 1 歳 BCG 接種 少し膿んだ
- 3 歳 妹が誕生
- 5～6 歳 そんなにひどくないが「喘息」が始まる（ステロイド系の吸入、気管支拡張剤など）
- 6 歳 小学校 6 年間家庭にてフッ素洗口。（現在も虫歯なし）
- 9 歳 妹が誕生
- 13～15 歳 父の認知症が進んだため父の実家へ引っ越し同居始める。母と姑不仲
- 14 歳 水痘（水疱瘡）接種
- 15 歳 水痘（水疱瘡）接種 インフルエンザワクチン接種
- 16～18 歳 2 度自分の自転車運転中不注意で車に跳ねられるも①無傷②無傷だったが CT 異常なし
- 18 歳看護学校 インフルエンザワクチン年一回数年接種
- 21 歳 就職 マルチアレルギーの症状が酷くではじめる
- 24 歳 引っ越し これ以降インフルエンザワクチンは接種していない

《第 1 回相談会 2014. 9. 13》

何も予定がないと気力がなくなり辛くなる。だるい。早く寝ても朝起きれない。鼻水が常に出る。鼻づまりがある。季節の変わり目に喘息発作がある。特に湿った天候で悪化する。不安から呼吸困

難。ヒューヒュー言う。過去の記憶があまりない。嬉しいこと悲しいことがあったが思い出せない。2重人格を言われたことがある。悲しみがあるけどそれが何かわからない。突然、猛烈の痒みのある発疹がでた。

○方法：TBRにてレメディーを選択

1522# 痒み(搔痒) - 全般：

1529# 虫などがはうような・むずむずする感覚(非移動性の、一個所の)： - くすぐったい(軽い、不快ではない)：

568# 呼吸 - 圧迫された(締めつけられるような；呼吸困難)：

577# 流れる(鼻汁が出る)：

578# 乾いた(鼻汁の出ない)：

1712# 湿った(雨および寒い湿った)天候：(+好転 乾いた天候)：

1725# 暖かいこと(暖かさ) - 全般：(+好転 寒冷全般)：

1063# 過剰な(アレルギー、など)：

《第1回目処方》

随時 MT) Thuj-V2 これまで摂ってきた薬剤の影響に
+Pol-V ポリオワクチンの影響に
+BCG-V BCG ワクチンの影響に
+Inf9798-V インフルエンザワクチンの影響に
+Merc-sol. 30C 蓄積する水銀の影響に
+Varic-V 水疱瘡ワクチンの影響に

朝 Hep. LM1 抗疥癬介入レメディー 体内の溜まった膿の排泄をサポート

昼 Tub. LM2 結核マヤズム(喘息やマルチアレルギー体質に)

夜 Chin. LM3 授業で寅子先生のアドバイスをいただいたことを参考に。アレルギー過敏で Tub 傾向のレメディーでもであると確認したため TBR11 番目に表示された今回は Chin を選択。

《途中緊急相談》

犬に噛まれるも大事には至らず。Hyper. Arn. Led. Calen. (MTも併せて)を指示。

《第2回相談会 2015.1.15》

年末にインフルエンザに罹った。38度の発熱が2~3日続いて、とても辛かった。胃が不調で、食べたいけどお腹いっぱい食欲がない。

朝が起きられない。悲しくないのに笑っていても泣いてしまう。感情移入しやすい。梅雨時期は喘息が酷くなる。秋から冬にかけて特に喘息症状が出やすく、走ることで喘息傾向になる。季節の変わり目に鼻水・鼻づまりが交互に出る。寒さで体調が崩れやすい。果物(桃・さくらんぼ)を食べると喉がイガイガする。動物(犬)に舐められると赤い発疹(ブツブツ)が出て猛烈な痒みに襲われる。搔くとさらに広がる。喘息発作も出る。

○方法：TBRにてレメディーを選択

830# 朝(目覚めが困難、目覚めが遅い；朝眠そうで不活発)

1376# 皮膚の乾燥(発汗の欠如、無汗症)

1702# 温度、季節、天候 - 寒冷から - 全般：(+好転、暖かさ全般)

544# 気道(気管及び気管支)

1917# 労作で - 身体的な：速く歩く(走る、踊る、など)

568# 圧迫された(締めつけられるような；呼吸困難)

《第2回目処方》

随時 MT) Thu-j-V0 長年取り続けたワクチンの影響に
+Kali-s. 12X 慢性化した炎症に対して
+Nat-f. 30C フッ素の影響に
+Ars-i. 12X 季節の変わり目に鼻水・鼻づまりが交互に出る、喘息・鼻炎・花粉症、
食物アレルギー等、マルチアレルギー体質に対して
+Cortis. 30C コルチゾール薬剤の影響に
+Inf-Lox-D. 30C 解熱剤の影響に
朝 Hep. LM2 抗疥癬介入レメディー
昼 Tub. LM3 結核マヤズム
夜 Nux-v. LM4 TBR 示唆

頓服 S-Zen-ho 喘息発作時に
Obsid. 200C

《経過》

喘息発作時に薬を摂らなくても平気になった。長年喘息薬をとってきたクライアントにとって、薬から解放されたことをとても感動していた。そのほか、症状変化として鼻水が止まる。

《第3回目相談会 2015. 7. 8》

○方法：TBRにてレメディーを選択

1158# だるさ（倦怠感、疲労や飽き・退屈を感じること）
117# 鼻出血
545# 喉頭
1073# 内側部分に（かゆみ、くすぐったい感覚、など）
829# 眠気 - 日中全般
568# 圧迫された（締めつけられるような；呼吸困難）
1443# 赤い、皮疹
1712# 湿った（雨および寒い湿った）天候：（+好転 乾いた天候）

《第3回目処方》

随時 サポートφ腎臓 妊娠中の腎臓のケアに
+Ferr-p. 12X 妊娠初期の貧血予防（鉄分の吸収力アップ）に
+Calc-f. 12X 疲れやすさ、胎児の骨のケアに
+Petr. 30C 石油系の影響に
+Ana-C-HD. 30C 麻酔薬の影響に
+Pitu-gl. 30C ホルモン分泌サポート
朝 Sulph. LM3 抗疥癬介入レメディー（妊娠初期の胎児の成長にも）
昼 Tub. LM4 結核マヤズム
夜 Merc-sol. LM5 TBR 示唆

《経過》

3回目の相談会后、適用書発行を前に「妊娠」が発覚。（妊娠6週目）。
桃アレルギーがなくなった。

【結果】

薬剤やワクチンの影響に対するレメディーを中心に選択した1回目の処方後、インフルエンザにはじめて罹り発熱したことで、カラダに蓄積する老廃物が排泄されたと予測される。2回目の処方後に喘息発作に対して薬を使わなくてもいいほどに症状の深刻度が減った。また、最愛の人に出逢い自然妊娠し、3回目の処方後には、食物アレルギーが一部なくなった。ホリスティックに診て体質改善が緩やかに進み、クライアントの人生が望む人生へと動き出した。

【考察】

今回のケースでは、「妊娠すること」が相談会にかかった目的ではなかったが、近い将来いつでも元気な赤ちゃんを授かるカラダづくりを目指して「妊娠前」に、アレルギー・喘息等の慢性疾患の改善、これまで摂ってきた薬剤の負荷を取ることを進めたいという未来の命を見据えて今の自分の健康を考えるという素晴らしい意識を持ったクライアントでした。レメディーを介して、生命力が揺り動かされ、体にたまり続けた不要な老廃物の排泄が進み、喘息発作に対して薬を使わなくてもよくなった。クライアントは何より驚き喜んだ。喘息発作の薬からの解放、そこに至った一つの大きな要因として、インフルエンザに罹り発熱したことで症状の改善への大切なプロセスであったと推測する。また、相談会途中で最愛のパートナーとの子どもを授かるという嬉しい出来事に対し、慢性症状など体の中では炎症が長い間起き続けて、生命エネルギーがその症状に囚われ、朝がととても弱かったり疲れやすかったりという状態が続いていたのだらうと予測される。炎症にエネルギーを奪われ、肉体的にも意識的にも余力がなかったが、不要な老廃物が体外へ排泄されたことで本来のクライアントの生命力が目覚めはじめ妊娠できる肉体・意識・女性力・生命エネルギーが養われたのだと考えられる。これらを踏まえ、自然妊娠したい女性、未妊で悩む人、妊娠前にデトックスしたい人、元気な子どもを生み育てたいと思っているすべての女性に対するホメオパシーの可能性をととても強く感じた。妊娠前の健康状態は未来の子どもや孫の健康にも大きく影響する。妊娠前から慢性疾患の改善に取り組むことで、自分自身の健康はもちろん、未来の子どもたちの難病奇病のリスクを減らし、本来の健康を次世代の命へとつないでいけると確信する。ぜひ、これから命を産み育てる若い世代にZEN ホメオパシーを広げていきたい。

カテゴリー：[妊娠・出産・女性の症状] [アレルギー・アトピー・皮膚疾患]